

確認テスト

所属_____

氏名_____

権利擁護／虐待防止①基礎知識編～高齢者虐待の実態（居宅編）

- 1) 虐待は発生割合を認知症の重症度別ではどの区分が最も多いでしょうか？
1. 認知症日常生活自立度Ⅰ
 2. 認知症日常生活自立度Ⅱ
 3. 認知症日常生活自立度Ⅲ
 4. 認知症日常生活自立度Ⅳ
 5. 認知症日常生活自立度M
 6. 自立又は認知症なし
- 2) 1) の答えである高齢者への虐待が一番多い理由を考えてみましょう。（所要時間：5分）
- 3) 虐待相談・通報者は誰が多い？
- 介護支援専門員
 - 介護保険事業所職員
 - 医療機関従事者
 - 近隣住民・知人
 - 民生委員
 - 被虐待者本人
 - 家族・親族
 - 警察
- 4) 居宅で最も多く発生しているのは、どんな虐待だと思いますか？
- ①身体的虐待
 - ②介護等放棄（ネグレクト）
 - ③心理的虐待
 - ④性的虐待
 - ⑤経済的虐待
- 5) 要介護度別にみると、最も多く虐待を受けているのはどれだと思いますか。
- 要支援1
 - 要支援2
 - 要介護1
 - 要介護2

- 要介護3
- 要介護4
- 要介護5

6) 5)の答えが最も多いのは、なぜだと思いますか。(所要時間3分)

※考えるヒント：要支援2は少ない

7) 虐待の発生要因で多いのはどっち？

- ①虐待者の介護疲れ・介護ストレス
- ②被虐待者と虐待者との人間関係

8) 虐待が最も多い被虐待者との続柄は？

- ①夫による虐待
- ②妻による虐待
- ③息子による虐待
- ④娘による虐待
- ⑤嫁による虐待

9) 虐待が起こった家族形態で最も多いのは？

- ①単独世帯
- ②夫婦のみ世帯
- ③未婚の子と同居
- ④子夫婦と同居

10) 被虐待者が利用している(していた)サービスのうち、多いのはどっち？

- ①訪問介護
- ②通所介護

11) 虐待を行った年齢層では、どの年代が最も多いと思いますか？

- ①40歳未満
- ②40～49歳
- ③50～59歳
- ④60～69歳
- ⑤70～79歳
- ⑥80歳以上

12) これらの虐待の実態からどんなことが見えてきますか？ (所要時間：5分)

13) 居宅での虐待防止のために何が出来そうですか？

権利擁護／虐待防止①基礎知識編～⑤高齢者虐待の実態（居宅編）

1) 解答 2. 認知症日常生活自立度Ⅱ 34.3%

（内訳）

1. 認知症日常生活自立度Ⅰ	17.8%
2. 認知症日常生活自立度Ⅱ	34.3%
3. 認知症日常生活自立度Ⅲ	24.1%
4. 認知症日常生活自立度Ⅳ	7.1%
5. 認知症日常生活自立度Ⅴ	1.6%
6. 認知症自立又は認知症なし	10.1%

※不明など 2.0%

<解説>

認知症があっても生活は自立しているレベルの認知症日常生活自立度Ⅰから、日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難になってくるレベルの認知症日常生活自立度Ⅱになると急激に虐待が増加しています。認知症がⅠからⅡに進行した辺りが虐待発生の危険サインです。

2) 解答 介護支援専門員 29.9%

（内訳）

介護支援専門員	29.9%
介護保険事業所職員	6.6%
医療機関従事者	4.9%
近隣住民・知人	3.7%
民生委員	2.9%
被虐待者本人	7.6%
家族・親族	9.1%
警察	21.1%

※その他 14.2%

<解説>

近隣住民・知人からの通報はわずか 3.7%です。介護支援専門員と介護保険事業所職員を合わせると全体の約3分の1を占めるのとは対照的です。このことから虐待は潜在化しやすい実態が見えます。

そのために、高齢者介護に携わる者には、虐待の早期発見の努力義務が課せられています。

3) 解答 最も多いのは「身体的虐待」 67.9%

（内訳）

身体的虐待	67.9%
介護等放棄	19.6%

心理的虐待 41.3%
性的虐待 0.6%
経済的虐待 18.1% ※複数回答

<解説>

身体的虐待は、体に虐待のあとが残っていることで発見しやすいと言えます。居宅における虐待の特徴として、経済的虐待が多いことを覚えておきましょう。

4) 解答 要介護1。23.4%

(内訳)

要支援1 7.5%
要支援2 9.0%
要介護1 23.4%
要介護2 21.5%
要介護3 18.2%
要介護4 12.7%
要介護5 7.4%
※不明0.3%

<解説>

5) にも関連しますが、認知症状が出始めるところから急激に虐待が増加することが分かります。

5) 解答(例)

認知症に対する理解がなされていない。などなど。

<解説>

要支援2と要介護1の違いは、認知症状の有無です。認知症状が出始める要介護1から急激に虐待が増加していることは、認知症状が介護者を苦しめている実態が見えてきます。

6) 解答 虐待者の介護疲れ・介護ストレス

(内訳)

第1位	虐待者の介護疲れ・介護ストレス	27.4%
第2位	虐待者の障害・疾病	21.3%
第3位	経済的困窮	14.8%
第4位	被虐待者の認知症の症状	12.7%
第5位	虐待者の性格や人格	12.0%
第6位	被虐待者と虐待者との人間関係	10.4% ※複数回答

<解説>

最も多いのは、虐待者の介護疲れ・介護ストレスです。このことから、虐待防止とともに介護者の支援が、高齢者虐待防止法の目的となっています。

7) 解答 ③息子による虐待 40.5%

(内訳)

- ①夫による虐待 21.5%
- ②妻による虐待 5.8%
- ③息子による虐待 40.5%
- ④娘による虐待 17.0%
- ⑤嫁による虐待 4.0%
- ※その他 11.2%

<解説>

夫、息子を合わせると、62.0%となります。妻、娘、嫁を合わせた 26.8%に比べると、男性による虐待が圧倒的に多いことが分かります。その理由は、男性の介護者は周りに相談できる人おらず、孤立しがちであることも要因の一つとして考えられるでしょう。介護者が孤立する問題は、女性も同じですが、男性の場合には特に注意しなければならないことが分かります。

8) 解答 ③未婚の子と同居 33.8%

(内訳)

- ①単独世帯 7.5%
- ②夫婦のみ世帯 21.7%
- ③未婚の子と同居 33.8%
- ④子夫婦と同居 14.4%
- ※その他 22.6%

<解説>

未婚の子との同居が最も多く、子夫婦との同居は、それほど多くはありません。7) のデータから、虐待者は息子が最も多いことが分かっていますが、同じ息子でも、結婚している場合と未婚の場合では、未婚の息子による虐待の方が多いのではないかとということが伺われます。

9) 解答 ②通所介護 62.7%

- ①訪問介護 28.2%
- ②通所介護 62.7%

<解説>

このデータは、通所介護で虐待を受けたというものではなく、被虐待者が利用していた介護保険サービスは、通所介護が多かったというものです。日中は、通所介護を利用して、夜間は介護者が対応しているという実態が見えてきます。

10) 解答 ③50~59歳 23.8%

(内訳)

- ①40 歳未満 8.3%
- ②40～49 歳 18.3%
- ③50～59 歳 23.8%
- ④60～69 歳 16.6%
- ⑤70～79 歳 14.5%
- ⑥80 歳以上 12.0%
- ※不明 6.7%

<解説>

最も多いのは 50～59 歳，2 番目に多いのは 40～49 歳，合わせると約 4 割となります。仕事と介護のバランスが取れていないことを伺わせます。

1 1) 解答 (例)

- ・虐待者で多いのは，親と同居している独身男性。
- ・日中は，訪問介護を利用して，夜間は，自分が介護をしている。
- ・親が認知症になったことを認められない。

などなど

<解説>

データからはさまざまな状態を読み取ることができますが，特に重視したいのは，介護者の孤立です。いかに孤立させないかが問われます。

1 2) 解答 (例)

- ・家族の会を紹介する。
- ・認知症を理解できるようなイベントに参加してもらう。などなど

<解説>

居宅における虐待は，介護者の介護疲れが主な理由です。介護者を孤立させず，そして認知症を正しく理解してもらうことは欠かせません。そのほか，今回考えたことはすべてが重要です。一つでも実現できるように取り組んでいきましょう。それが虐待の早期発見の努力義務を課せられている高齢者介護に携わる者の責務です。